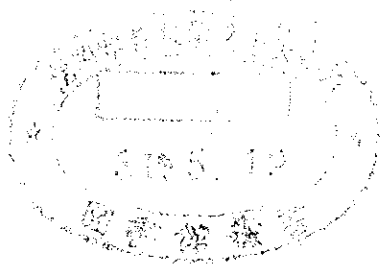


改正
經濟說略
永田健助編述
上



T1A1
23
N 23



明治三十一年十一月改正

永田健助編述

經濟說畧

永田氏藏板

私有物之安全勉
業之自由智識之
市及公費之節
儉此四者所以使人
民激發天資之能

力邦國竟進于富
實文明也

左錄英國經濟學士

麥哥祿氏語



緒言

我輩曩ニ英國經濟學士寶節德氏ノ小經濟論ヲ
譯述上梓シテ之ヲ寶氏經濟學ト題シ既ニ江湖
ニ播布セリ聞ク諸縣往々此書ヲ以テ學校ノ教
科ニ列スル者アリト實ニ我輩意外ノ幸ナリ初
メ余カ談書ヲ譯スルヤ務メテ原書ノ體裁ニ倣
ヒ我小學子弟教授ノ用ニ供セント欲スルノ意
ニ出タルナリ而ルニ今聞ク所ニ據レハ談書ハ
議論高尚ニ涉リ卷帙稍浩瀚ニ過ルヲ以テ尚我
普通小學ノ用ニ適セサルモノアリト一日師範

學校ノ教師某余ニ語テ曰ク君若シ寶氏經濟學ノ大意ヲ摘撮シ以テ其考校ヲ極メ更ニ一小冊子ヲ編セハ必ス其小學子弟ニ益アラント余是ニ於テ大ニ悟ル所アリテ遂ニ公務ノ餘暇ヲ以テ此書ヲ編セリ知ラス某ノ言ノ如クナリヤ否ヤ

本編ハ前ニ述ルカ如ク寶氏經濟學ノ主義ニ據ルト雖モ原ト我國人ニ解シ易キヲ主ト為スニ由リ引例解説其他事實全ク我國ノ制度慣習ニ適セサルモノハ余カ意見ヲ以テ之ヲ取捨變改

シ或ハ二三ノ經濟書中ヨリ取テ其篇ヲ増補セリ要スルニ童蒙ヲ啓發セントスル一片ノ苦衷ヨリ出ルトリ且讀者ニ向テ告ケサルヲ得サルモノアリ此書ハ僅ニ寶氏經濟學ノ階梯ニシテ唯其一班ヲ窺フニ過キサノミ幸ニ全豹此ニ盡キタリト為スコト勿レ

明治十二年十二月

編者誌

經濟說畧目錄

卷之上

總論

生財論

第一章 土地ノ事

土地ノ生産ヲ助クル功用○土地ノ生産力ヲ増ス事
情○有土農夫ト借地農夫トノ利害 自一丁至三丁

第二章 勤勞ノ事

勤勞ノ功用○直接及ヒ間接ノ勤勞○無益ノ勤勞○
分業ノ利益○道具及ヒ器械ノ功用○工人ノ熟練○

工人ノ才智○工人行狀○工人ノ誠實○有益ノ消費

ト無益ノ消費 自三丁至十丁

第三章 財本ノ事

財本ノ釋義○的例○財本ト貨幣ト同視スベカラズ
○貸銀資本○財本ノ功用ハ獨リ貸銀ニ止ラズ○財
本ハ儉約ノ結果ナリ○財本ハ消費セザレハ其功用
ヲ遂ル能ハス○財本ニハ流通不動ノ二種アリ○流
通財本ノ報酬ハ即時ニシテ不動財本ノ報酬ハ漸々
自十一丁至十三丁

交易論

第一章 價值ト價銀ノ別

價值ト價銀ノ解 十三丁

第二章 貨幣ノ事

品物ト品物トノ貿易○貨幣ニ使用セシ各種物品○
貨幣タル者ニ要用ナル三質○補助貨幣○貨幣ノ本
位 自十四丁至十八丁

第三章 物價ノ事

物價ニ三種類アリ○物價ハ其需要ニ供給スル價ニ
由テ定ル○物價ハ凡テ其生産費ニ近ク○第一類ノ
物價○第二類ノ物價○第三類ノ物價○利潤ハ諸業

共ニ均一ナリ○物價ハ生産費ニ因ル○物價ノ總旨
自十八丁
至二十五丁

第四章 貨幣ノ價值ノ事

貨幣ハ他ノ物品ト一般ニ其價ニ昇降アリ○貨幣需
要ノ多寡ハ人口ノ多寡ト貧富トニ因ル○鑛山發見
ノ成果 自二十五丁
至二十六丁

第五章 金銀ノ此國ヨリ彼國ニ轉輸スル

事

金銀ノ諸國ニ配分スル法ニアリ○金銀琨ノ貨幣ト
為リテ他國ニ輸出スル理由○英國ハ金銀ノ市場ナ

リ 自二十七丁
至二十九丁

卷之下

財貨分配論

財貨ヲ分チテ三者トス○此三者分配ノ法ハ各國各
種ノ風習アリ

第一章 地代ノ事

地代ノ解○地代ノ性質ノ解○リカルド氏ノ地代説
○耕作ノ限界○人口ノ多寡ヲ以テ國ノ富強ヲ測リ
難シ○慣習ニ由テ定ル地代 自二丁
至五丁

第二章 賃銀ノ事

貨銀ハ競争ニ由テ定ル○亞太斯密士氏ノ各種ノ業

ニ貨銀ノ差異ヲ生スル五原因 自六丁至九丁

第三章 財本ノ利潤ノ事

財本ノ利潤ハ儉約ノ報酬ナリ○利潤ト成ル者ニ三
元素アリ○利子非常ニ貴キハ其國ノ開化セサル一
原因○物價ノ貴キハ必ス常ニ利潤多キニアラス 自十丁至十二丁

第四章 共同肆店及ヒ工業結社ノ事

結社ノ主意○ロチデール、ピオ子ール社ノ例○巴里
府ノ工業結社ノ例 自十二丁至十四丁

外國交易及ヒ信用論

第一章 外國交易ノ事

外國交易ノ直益○間接ノ利益○自由貿易○保護稅

○佛國ノ引例 自十四丁至十八丁

第二章 信用ノ事

信用上ノ融通起ルノ理○信用ノ解○信用上ノ取引
ニハ數種アリ○合本會社○銀行○銀行設立ノ方法
○銀行紙幣ノ性質○交換紙幣及ヒ不交換紙幣ノ利
害○合衆國ノ引例○紙幣ノ直益 自十八丁至二十六丁

第三章 國民ニ租稅ヲ賦課スル所以ノ理

由

租稅ヲ賦課スルノ理○徵稅法ノ沿革 自二十六丁至二十八丁

第四章 租稅徵收法

亞太斯密士氏ノ徵稅法四則○第一則ノ辯解 自二十八丁至三十丁

第五章 直稅及ヒ間稅 三十丁

第六章 地稅

日本ノ地租徵聚法概畧 自三十一丁至三十二丁

經濟說畧目錄了

經濟說畧卷之上

永田健助 編述

總論

夫レ經濟學ハ財貨ヲ產出シ之ヲ分配シ而シテ
之ヲ交易スルノ法ヲ講スル學問ナリ
何ヲカ財貨ト云フ曰ク人ノ勤勞ヲ加ヘテ而シ
テ產出セル物品即チ是レナリ故ニ滿空ノ泰氣
太陽ノ光明及ヒ水ノ如キハ人ノ日々欽クベカ
ラサルモノナリト雖モ是レヲ財貨ト稱セス何

トナレハ是等ノ物品ハ何人モ勞セスシテ坐ナ
カラ得ラルベケレハナリ

生財論

財貨ヲ產出スルニ要用ナル者三件アリ曰ク土
地曰ク勤勞曰ク財本是レナリ故ニ此篇中ニ於
テハ先ツ此必要物ノ効能ヲ説明セントス

第一章

土地ノ事

○財貨ヲ產出スルニ土地ノ必要ナルハ三尺ノ
童子モ能ク知ル所ナリ凡ソ賣買上ノ物品中其

生産ヲ
助クル
土地ノ
功用

所生ヲ尋ヌレハ殆ト土地ニ出テサル者無シ試
ニ我身ニ着スル衣服ヲ看ヨ衣服ハ絹布或ハ棉
布ヲ以テ造リ出セシ者ニシテ絹布ハ蠶子ノ吐
キタル絲ヲ以テ製作セル者ナラズヤ而シテ其
蠶子ハ桑樹ノ葉ヲ食テ成長セシモノニアラス
ヤ又棉布ハ地ニ生セル棉花ヲ以テ織出シタル
者ナリ總シテ製造品ハ地產タル動物植物及ヒ
鑛物ニ出テサルハ無キナリ

○財貨ヲ造ルニ土地ノ必要ナル夫レ斯ノ如シ
故ニ人々勤メテ地味ヲ膏腴ニシテ物產ヲ増殖

土地ノ
生産力
ヲ増ス
事情

スルノ方法ヲ設ケサルヘカラス聞ク歐米諸國
ニ於テハ近來化學ノ術開ケテヨリ農夫モ肥料
ヲ調製スルノ方法ヲ發明シテ大ニ收穫ヲ増シ
タリト我日本ノ如ク特ニ農ヲ專ラト為スノ國
ニ在リテハ肥料調製法、灌漑及ヒ水拔等ニハ能
ク注意セサルヘカラス

有土農
夫ト借
地農夫
トノ利
害

○農作ニハ有土農夫ト借地農夫トノ別アリテ
各自其利害ヲ異ニス有土農夫ハ我勤勞ヲ以テ
我土地ヲ耕作スルニヨリ勤惰ノ損益常ニ我一
身ニ係ルト雖モ借地農夫ハ然ラス自ラ勉勵シ

テ地味ヲ改良シ以テ其收穫ヲ増ヒハ隨テ地主
ヨリ地代ヲ増サル、ノ恐アルノミナラス偶然
其土地ヲ引上ラル、ノ有ルニヨリ自然地味ヲ
膏腴ニシテ地産ヲ増殖スルノ念ヲ絶ツヘシ是
故ニ借地耕作ハ借地人タル者初メヨリ其他主
ト夫々ノ約定ヲ結ヒ我カカヲ加ヘテ沃壤トナ
シタル土地ヲ地主ヨリ漫リニ引上ル場合ニハ
公然ト其辨償ヲ地主ニ責ルヲ得ルノ法則アル
ニアラサレハ到底地味ヲ改良スル能ハサルナ
リ

第三章

勤勞ノ事

勤勞ノ
功用

○凡ソ如何ナル物品モ太陽ノ光線ノ如キ自然ニ存在スル者ノ外ハ多種ノ勤勞ヲ加ヘテ而シテ後産出スル者ナリ例ヘハ小麥粉ノ如キ容易ニ製造シ得ルモノト雖モ終ニ磨粉ト為スニ至ルマデニハ其手数幾何ソヤ即チ種ヲ播キ之ヲ收ル農夫アリ農夫ノ鋤鋤ヲ造ル鍛冶師アリ金匱ヲ掘出ス礦夫アリ其他之ヲ運搬スル馬車役夫舟子等アリ實ニ枚舉ニ遑アラサルナリ

直接及
ヒ間接
ノ勤勞

○凡ソ生産ノ道ヲ助クル勤勞ニハ直接ト間接トノ二種アリ學校ノ教師機械ノ發明者及ヒ巡查等ノ勤勞ハ間接ニ生産ヲ助クルモノナリ農夫及ヒ工職人等ノ勤勞ハ直接ニ生産ヲ助クルモノナリ人或ハ問ハン學校ノ教師町村ノ巡查等ハ何故ニ生産ノ道ニ益アルヤ答ヘテ曰ン學校ノ教師ハ少年子弟ヲ引立テ之ヲ陶冶シテ徳ヲ脩メ智ヲ磨キ後年ニ至リ終ニ善良ノ工作人ト成ラシムルニアラスヤ又曰ン巡查ハ晝夜ノ別ナク常ニ市街村里ヲ巡廻シテ人民ノ安寧ヲ

保護シ各自安ンシテ其産業ニ就クヲ得セシムルニアラスヤ

無益ノ
勤勞

○又俳優歌舞人講談師其他人ノ遊興ヲ助クル諸藝人ノ勤勞ハ人ノ精神ヲ鼓舞シテ之ヲ發達スルニ於テ多少ノ益アリト雖モ概シテ之ヲ無益ノ勤勞トス

分業ノ
利益

○一事業ヲ數科ニ分チテ各科一人ヲシテ專務タラシムル者ヲ名ケテ勤勞分業ト云フ英國經濟學士亞太斯密氏分業ノ利益ヲ分チテ三款トス曰ク第一各自ニ業ヲ分テハ工人ノ手練ヲ

第一ノ
利益

増シ第二此仕事ヲ輟メ彼ノ仕事ニ移ラサルヲ以テ時間ヲ徒費セサルヲ得ヘク第三一科業ニ従事シテ專心其業ニ勵精スル時ハ自然之ニ適ヤル良巧ノ機械ヲ發明スルヲアルベレト今左ニ例ヲ掲テ此分業ノ利益ヲ説明セン
凡ソ分業法ノ開ケシ以來其利益ノ最モ大ナル者ハ工職人ノ手練ヲ増シ、ニ在リ若シ日々時々此業ヲ作シテ未タ訖ラサルニ轉シテ彼業ヲ執レハ空シク時間ヲ費シ隨テ既ニ得タル所ノ熟練ヲモ失フニ至ルヘシ然ルニ專ラ一事業ニ

第二ノ利益

從事スル時ハ其仕事ハ常ニ手ニ粘着セルカ如ク其所作容易ニシテ且自然巧妙ト為ルヘシ若シ一人ニシテ各科ノ事業ヲ為ス時ハ時々刻々ニ機具ヲ取替ヘサルヲ得ス是レ其取替フル間ハ全ク時刻ヲ徒消スルナリ然ルニ各人同一ノ器械ヲ以テ終日一事業ヲ專ラニスル時ハ全ク其時間ヲ有用ニ致スヲ得ヘシ鍛冶師ノ鎔解爐ニ就テ之ヲ言フニ先次一回之ヲ熱シ更ニ之ヲ棄テ轉シテ他ノ事業ヲ為サハ其間ニ消糜スル所ノ薪炭ト再ヒ暖ムルカ為メニ用フル所ノ

第三ノ利益

薪炭トハ空シク失フヘシ而ルニ一人專業ナレハ決シテ此患ナキナリ各人一科ノ事業ヲ專務ト為ス時ハ事業ヲ容易ニシ之ヲ省略シ遊刃ノ餘リ一人ニシテ多人數ノ仕事ヲ為サシムルヲ得ルノ機械ヲ發明スルヲ有ルヘシ其一例ヲ舉ケンニ昔英國ニワットト云フ蒸氣機關ノ發明者アリ其構造セル機關創始ノ日ニハ童子ヲ使役シテ蒸氣罐ノ弁ヲ開閉セシメタリシカ一童子熟思ヘラク若シ我手ヲ下サスレテ之ヲ開閉スルノ方法ヲ求メ得バ我

去リテ友侶ト遊フヲ得ヘシト此一念ヨリシテ
遂ニ辦ノ自ラ開閉スルノ機械ヲ發明スルニ至
リシト云フ是レ巧妙ノ機械師トイヘル未タ工
夫セサル所ニシテ全ク一事業ヲ專務ト為スノ
致ス所ナリ

第四ノ
利益

右ノ三款ハ斯密士氏ノ既ニ説キシ所ナリ更ニ
氏ノ未タ説カサル第四款アリ曰ク業ヲ分ツ時
ハ一事業中ニテモ各工人ヲシテ其長技ノ事業
ヲ以テ專務トセシムルヲ得ヘシ例ヘハ一日僅
ニ五錢ノ賃銀ヲ得ル少年モ成シ得ヘキ事業ヲ

自由貿易ハ又
分業ト
リ

勤勞ノ
協合

以テ五十錢ツ、ノ賃銀ヲ要スル職人ヲシテ之
ヲ為サシムルハ甚シキ浪費ト云フヘキナリ
○自由貿易ハ又分業利益ノ大ナルモノナリ即
チ世界中交易通商ヲ開キタル國々ノ人民ハ專
ラ自國ニ於テ天然ノ利益アル物品ヲ夥多産出
シテ彼我ノ有無互ニ相通スルヲ得レハナリ
○勤勞分業ハ其利益大ナル固ヨリ論ヲ待タヌ
ト雖モ勤勞協合ノ利益ハ蓋シ是ヨリ一層大ナ
ラン今農家ト製造家トノ勤勞ニ就テ之ヲ云ハ
ンニ農家ハ我々需要ニ供スル食物外ニ於テ更

ニ餘分ノ者ヲ造リ出サシカ為メ其勤勞ヲ協合
シ又製造家ハ我カ需用ニ供スル物件外ニ於テ
更ニ餘分ノ品ヲ製センカ為メ其勤勞ヲ協合シ
テ其贏餘ノ物品ヲ以テ農家ノ贏餘セル食料ト
彼我交換シ互ニ其利益ヲ得タリ若シ然ラスシ
テ農夫ハ自ラ鋤鋤ヲ造リ自ラ耕耘セハ其損益
果シテ如何ノヤ

道具及
機械
ノ功用

○道具及ヒ機械ノ勤勞ニ必要ナルハ諸人ノ熟
知スル所ナリ凡ソ百工製造一トシテ機械ノ効
用ヲ借ラサルモノ無シ草昧未開ノ世ノ耕作ト

工人ノ
熟練

雖モ必ス鋤鋤ヲ用ヰサルヲ得ス小ハ則チ農夫
ノ鋤鋤及ヒ大工ノ鋸鑿等ノ如キ大ハ則テ蒸氣
車ノ如キ人力ハ假令幾多ヲ併合ストモ其萬分
ノ一ニモ及ハス是レ機械ノ勤勞ニ必用ナル所
以ナリ

前條ニ掲クル所ノモノハ人ノ勤勞ヲ助クル有
形物ノ科目ナリ左ニ掲載スルモノハ即チ人ノ
熟練才智行狀及ヒ信實等ノ如キ無形物ヲ論ス
ルモノナリ

○凡ソ熟練ヲ為サル職工人ハ空シク其事業

ニ用フル所ノ材料ヲ費スル必カラス彼ノ大工ノ弟子ヲ見スヤ其修業中ノ三四年間ハ空シク器具ヲ損シ材木ヲ費スル最モ多シ是レ其熟練ノ足ラサルカ致ス所ナリ

才智

工職人ニ教育ヲ普及シテ其智識ヲ開發スルハ勤勞ノ効能ヲ増益スルニ於テハ至要ノ方便ナリ夫レ無智文盲ノ工人ハ唯其師ヨリ傳受シタル模式ニノミ拘泥レテ自ラ工夫ヲ致シテ其作業ヲ改良スルノ方法ヲ立ルヲ知ラス故ニ一旦職業不景氣ト為ルノ日ニハ他ニ轉業フルノ目

行狀

的無ク空シク手ヲ束子テ終ニハ一家族舉テ活路ヲ失フニ至ルヘキナリ

工職人ノ行狀ヲ謹ムモ亦勤勞ニ効能ヲ顯ハスル少ナカラス凡ソ平素飽酒淫逸ヲ縱ニスル者ハ假令身體健康ノ時ト雖モ骨折ノ事業ヲ做シ難ク大抵壯年ニシテ身體衰弱シ或ハ非命ノ死ヲ致スヲ免カレス

誠實

工職人ニ實意ノ無キカ為メ止ムヲ得ス別ニ監督人ヲ置テ作業ノ勤惰粗密ヲ看守セサルヲ得サラシム若シ工職人ノ間ニ互ニ信實ヲ重ンス

スルノ風儀行ハル、ニ於テハ其監督人ノ勞ヲ
省キテ他ノ職業ニ就クヲ得セシムヘシ是ニ由
テ之ヲ觀レハ一國ノ經濟上ヨリ論スルモ人民
ニ教育ヲ普及シテ德ヲ磨キ智ヲ修メシムルノ
緊要ナル得テ知ルヘキナリ

有益ノ
消費ト
無益ノ
消費

○物品ヲ消費スルニ有益ニ費スト無益ニ費ス
トノ二種アリ酒烟草其他奢侈ノ品物ハ毫モ將
來ノ生産ノ路ヲ助ケサルニヨリ舉テ無益ノ消
費タラサルハ無シ蓋シ有益ノ消費ト為ル者ハ
唯農夫及ヒ他ノ必用物ヲ製作スル工職人カ其

事業ヲ勤ムルノ際ニ費ス所ノ衣食薪炭ノミナ
ルハニ讀者若シ此ニ注目セハ夫ノ世俗ノ往々
首唱スル破産家カ飲酒放蕩ニ耽リテ漫リニ金
銀ヲ擲ツヲ以テ却テ世ノ潤澤ト為ルトノ俗説
ノ妄誕ナルヲ知ルニ足ルヘシ

第三章

財本ノ事

財本ノ
釋義

的例

○財本ハ將來ノ生産ヲ助クルカ為メ節儉シテ
蓄積シタル財貨ノ部分ナリ
例ニ由テ之ヲ説明センニ夫レ農民ハ今年收穫

財本ト
貨幣ト
ヲ同視
スヘカ
ラス

スル所ノ者ヲ貯蓄シ置テ明年收納ヲ為スニ至
ルマテ我カ妻子ト雇人トニ衣食薪炭ヲ給與セ
サレヘカラス是レ此物品ハ即チ明年收穫ヲ為
スノ財本ナリ

○世人或ハ財本ト貨幣トヲ同一視スル者アリ
是レ大ナル誤リナリ夫レ財本ハ將來物品ヲ製
作センカ為メニ使用スル所ノ財貨ニシテ貨幣
ハ則チ其造リ出シタル物品ノ價直ヲ定ムルノ
本位ナリ苟モ貨幣ハ衣服食料等ノ如キ休養生
息ニ必需ナル物品ト交易スルニアラサレハ毫

賃銀資
本

モ生産ノ用便ヲ為サ、ルナリ

○工作人ノ賃銀ニ分配スル財本ヲ名テ賃銀資
本ト云フ此資本ニハ無益ニ費ス者ト有益ニ費
スモノトアリ農家ノ雇人及ヒ製造場ノ職人等
ニ給與スル者ハ即チ有益ノ賃銀ニシテ家屋ヲ
裝飾シ庭園ノ花木ヲ培養スルカ如キ榮耀ノ事
業ニ費ス者ハ無益ノ賃銀ナリ

○財本ノ生産ニ要用ナルハ獨リ有用ノ工作人
ニ給與スル賃銀ノミニアラス農夫ノ收納屋鋤
鋤等ノ諸道具并ニ種物及ヒ製造家ノ仕事場若

財本ノ
功用ハ
獨リ賃
銀ニ止
ラズ

財本ハ
儉約ノ
結果ナ
リ

クハ諸機械等ハ是レ又要用ノ財本ナリ

○財本ハ節儉シテ貯蓄セル者ナリ故ニ遊治放蕩ニ耽リテ家産ヲ失フ人ハ夫丈ケ其國ノ財本ヲ減少セル者ナリ夫ノ世人ノ屢唱フル所ノ酒食遊興ノ浪費ハ商家或ハ工職人ヲ潤ストノ説ハ財本タル者ヲ會得シ得サル徒ノ俗言ナリ奢侈榮耀ノ物品モ是又國ノ財本ヲ増蓄スルノ資タラス例ヘハ農夫カ米穀ヲ賣リ其代價ヲ以テ妻孥ノ櫛簪等ヲ購フカ為ニ費スギハ此米ヲシテ財本ト看做スベケンヤ是固ヨリ他人ノ食料

財本ハ
消費セ
サレハ
功用ヲ
遂ル能
ハス

ニ用キラルベケレハ農夫カ其代價ヲ以テ肥料ヲ購フニ充レハ夫丈國ノ財本ヲ増加スベシ故ニ奢侈ニ費シタル財貨ハ唯其人一人ノ快樂ヲ達スルカ為ニ消費シタルモノト云フベシ

○財本ハ節儉シテ蓄積シタル者ナリト雖モ土蔵ニ納レテ藏蓄シ或ハ瓶ニ納レテ土中ニ埋ミ置ク金銀ヲ以テ國ノ財本ヲ増益スル者ト誤認スヘカラス苟モ之ヲ利用セント欲セハ消費セサルヘカラス夫レ財本ハ將來ノ産業ヲ興起セシカ為メ或ハ工職人ノ賃銀ヲ給シ工事ニ必要

ナル器械屋舎其他需用ノ材料ニ供センカ為メ
 ニ費用ヲ節省シテ貯蓄シタル財貨ナリ財ニシ
 テ本ト名クルハ此ヲ以テナリ讀者須ラク此ニ
 要ヲ記臆シテ常ニ胸裏ニ在クヘシ

財本ニ
 ハ流通
 不動ノ
 二種アリ

○財本ニハ流通不動ノ二種アリ工職人等ノ費
 ス衣食薪炭ノ如キ一タヒ用キテ其功用ヲ了フ
 ル者ヲ流通財本ト謂ヒ其工場并ニ機械及ヒ農
 夫ノ鋤鋤ノ如キ幾回モ用フルヲ得ヘキ者ヲ不
 動財本ト謂フ

流通財
 本ノ報

○流通財本ノ報酬ハ直ニ取收メ不動財本ノ報

酬ハ即
 時ニシ
 テ不動
 財本ノ
 報酬ハ
 漸々ナ
 リ

酬ハ漸々ニ取收ムル者トス例ヘハ農家ハ其年
 收穫シタル穀物ヲ賣捌キテ本年費ス所ノ雇人
 ノ賃銀肥料及ヒ種物等ノ財本ニ代フヘキ充分
 ノ潤益ヲ得シヲ期スヘシ然レモ收納屋及ヒ
 鋤鋤等ノ如キ財本ノ潤益ハ其永續スル年限中
 ニ取收ムルモノト見込ムヘシ

前條生産ノ道ニ關セル者ヲ土地勤勞及ヒ財本
 ノ三章ニ分チテ大畧其要領ヲ掲ケタリ後篇ニ
 於テハ其產出スル所ノ財貨交換ノ方法ヲ述シ
 トス

交易論

第一章

價值ト價銀トノ別

價值ト
價銀ト
ノ別

○價值トハ彼ノ物ト此ノ物トヲ較ラヘタル多寡ヲ謂フナリ例ヘハ壹升ノ米ヲ以テ五合ノ酒ト交易シ得レハ米壹升ノ價值ハ即チ酒五合ト云フカ如シ又價銀トハ物品ノ價值ヲ計フルニ貨幣ヲ用フルノ多寡ヲ謂フモノニシテ夫ノ米壹升ノ價銀幾何ト問ハルニ當テ拾錢ナリト答ルハ即チ貨幣ヲ以テ米ト相較ラヘタルナリ

故ニ價銀ハ價值ノ一種ノ名目タルニ過キサル
ノ三

第二章

貨幣ノ事

品物ト
品物ト
ノ貿易

○北海道蝦夷人ノ如キ野蠻ノ民ハ金銀貨幣ノ如キ交易ノ媒介ヲ為ス者ヲ用フルヲ知ラス故ニ甲乙相互ニ物ト物トヲ交易シテ各自ノ便利ヲ達ス甲ハ己レカ私用ニ餘リアル魚類ヲ所持スレハ衣服又ハ弓箭ノ如キ己レカ有セサル需用ノ物品ヲ所有セル乙ノ許ニ往キテ之ト互

市交易ス之ヲ名ケテ品物交易ト云フ今日學校ノ童子輩カ互ニ筆墨等ヲ交換スルノ所為ヲ以テ現ニ觀ルヘキモノナリ凡ソ世ニ斯ノ如キ交易法ノ行ハル、間ハ通商交易ノ開クル機會無し然レモ人文漸ク進ムニ隨ヒ文物制度稍起リ人々始ノテ此交易ノ不便ヲ覺リ竟ニ金銀等ノ如キ萬民ノ普子ク貴重スル所ノ物品ヲ擇ニハ諸物品ノ價ヲ定ムルノ權衡ト為シ一ハ互市交易ヲ為スノ媒介物ト為スニ至ルナリ

貨幣ニ
使用

○方今世界萬國共ニ通商交易ノ開ケタル國々

ル各種
物質

貨幣ニ
要用ナ
ル三質

ニ於テハ專ラ金銀銅ヲ以テ貨幣ニ用フト雖モ往古ハ然ラスシテ各國各種ノ物品ヲ使用セリ現ニ蒙古人ハ茶粉ヲ押堅メテ四角ト為セル者ヲ用リ亞弗利加ニハ今日尚ホ一種ノ介殼ヲ用ル人種アリ又往昔ノ亞刺比亞人ハ牛羊ヲ用キ亞比尼亞人ハ食塩ヲ用キタリト云フ

○凡ソ貨幣トシテ選擇シタル物質ハ左ニ述ル所ノ性質ヲ具フルヲ要ス

第一 貨幣タル者ハ價直ノ容易ニ昇降セサルヲ要ス

第二 世人ノ普子ク貴重スル所ノ實價ヲ保有スルヲ要ス

第三 其狀チ小ニシテ多量ノ價直ヲ保有スルヲ要ス

第一質

此中ニ於テ第一質ハ最モ緊要ニシテ若シ貨幣ノ價值カ五穀等ノ相場ノ如ク日々ニ升降アラシメハ賣買取引上ノ約束ハ悉ク賭博ヲ為スト一般ナルニ至ラン尤モ金銀モ多少其價格ニ變更ヲ生セサル無トニアラスト雖モ凡ソ其變易ノ少キハ金銀ニ如クモノナキナリ蓋シ其價值

第二質

ニ於テ甚シキ差異ヲ生セサル所以ノモノハ此金屬ヲ掘出ス費用ニ於テ巨大ノ變化ナキニ由ルノミナラス最モ稀有ノ機會ニアラサレハ此金屬ノ偶然ニ世上ニ増減スルヲ無キニ因ルモノトス往年亞米利加及ヒ澳大利亞ニ於テ金銀饒多ナル礦山ヲ發見セシカ如キハ古今無比ノ例ナリトス

貨幣ハ普通ノ交易上ニ使用スルノミナラス世人ノ普子ク貴重スル物質タラサルヘカラス古來野蠻ノ人民ト雖モ金銀ノ器具ヲ珍重スル所

第三頁

以ノ者ハ燦爛タル光澤ヲ帶ヒタルト永久ニ保
存スヘキト鍛鍊ヲ受クヘキ質アルトノ三件ニ
因レリ是レ古今萬國ノ人民ヲシテ華美奢飾ノ
用具ニ金銀ヲ用キシムルノ緣由ナリ是ニ由テ
之ヲ觀レハ貨幣タル者ニ要スル第二質ヲ保ツ
者ハ總テ金銀ニ如クモハナキナリ
貨幣タルモノハ因ヨリ狀チ小ニシテ價直多カ
ラサルヲ得スト雖モ其大小ニ隨テ價直ニ差異
ヲ生スルモ又自ラ適度ナカラサルヘカラス世
ニ金剛石等ノ如キ金銀ニ比スレハ狀チ小ニシ

補助貨

テ價直最モ大ナル珠玉寶石アリト雖モ金剛石
ノ如キハ僅ニ針頭ノ大サニテモ五圓乃至八圓
ノ價ヲ有ツノミナラス此ノ如キ些小ノ物品ヲ
取扱フハ頗ル不便ニシテ且紛失ノ憂少ナカラ
ス加フルニ金剛石ノ如キハ之ヲ打碎テ粉齏ト
為セハ全ク價直ヲ失フニ因リ金銀ノ如ク大小
適宜ニ之ヲ鑄造スル能ハス是レ又金銀ノ貨幣
ニ適セル所以ナリ

○前條ニ陳ルカ如ク金銀ハ何等ノ物質ヨリモ
最モ善ク貨幣ノ主眼ヲ達スルモノトス我國及

ヒ其他諸國ニ於テモ金銀貨幣ノ外ニ銅貨幣アリ是レ即チ金銀ノ補助貨ニシテ少許ノ遣拂ヲ為スニハ最モ必要ノ具ナリ若シ一二錢ノ請拂ヲ為スニ金銀ノ小片ヲ以テセハ其形チ甚小ナルヲ以テ其不便實ニ名狀スヘカラス又二三圓ノ受拂ヲ為スニ銅貨ヲ以テセハ提携ニ不便ナル最モ甚シ是故ニ兩貨ノ便益相待テ始メテ完然タル貨幣ノ功用ヲ收ムルモノトス

貨幣ノ本位
○方今世界萬國皆金銀銅ノ三貨ヲ以テ貨幣ニ用フト雖モ此物質ノ中孰レカーヲ定メテ價直

普通ノ本位ト為スラ便利トス我國ニ於テハ金貨ヲ以テ普通ノ本位トセリ金札ハ金貨ノ代用物ナレハ即チ普通ノ本位トス合衆國ノ如キハ金銀ノ兩貨ヲ本位ト定ム請フ其不利ヲ説カン抑普通ノ本位トハ金銀貸借上或ハ物品賣買上ニ於テ甲乙共ニ其約定取結ノ日ニ何々ノ貨幣ヲ以テスヘント豫メ申合スルコトアルニ非レハ負債主或ハ物品ノ買主ニ於テ其期日ニ至リ必ス普通本位タル貨幣ヲ以テ之ヲ辨償セサルヘカラサル定規ナリ然ルニ金銀ノ二物ヲ以テ本位ト定ムル時ハ負債主

ハ其借用セシ者ノ金タルト銀タルトヲ問ハス
逐濟ノ期月一相場ノ下落セル者ヲ以テスルモ
債主ニ於テ彼是苦情ヲ鳴ラスコト能ハサルナリ

第三章

物價ノ事

物價ニ
三種類
アリ

④ 物價ヲ分テ左ノ三類トス

古人ノ名畫古器物等ノ如キ自由ニ其供給ヲ
増ス能ハスシテ專賣價ヲ存スルモノヲ第一
類トス
モノウリチダン

農作ヨリ成レル物産及ヒ礦物ノ如キ產出ヲ

増スニ隨ヒ其費用ヲ増スモノヲ第二類トス
製造物品ノ如キ產出ノ費用ヲ増加セスシテ
幾何タリトモ其供給ヲ増加シ得ルモノヲ第
三類トス

此三類ヲ分テ逐一ニ説明スヘシ

⑤ 夫レ物價ノ高低ハ買客ノ多寡ニ因ルヘシト
雖モ要スルニ物價下落スレハ買客隨テ多ク物
價騰貴スレハ買客隨テ寡キハ古今ノ通則ナリ
例ヘハ此ニ競賣ニ由シタル一屋舎アランニ之
ヲ買ント欲スル者六人アリ此場合ニハ各自競

物價ハ
其需要
ト供給
トヲ平
均スル
價ニ由
テ定ル

物價ハ
凡テ其
生産費
ニ依ル

テ其家ヲ買ント欲スルニヨリ價格益騰貴レ終
ニ其内ノ五人ハ手ヲ引テ最モ高直ヲ入レタル
一人ノ手ニ落ツヘシ是故ニ商賣上ニ關レ政府
法令ヲ設ケテ之ヲ箝束スル無ク唯諸人ノ自由
ニ任カスレハ凡百ノ物品ハ其需要ト供給トヲ
彼此平均スルノ價直ヲ以テ互ニ賣買スルニ至
ラン

○凡ソ物價ハ時アリ非常ニ騰貴レ或ハ下落ス
ルヲアルモ到底之ヲ造リ出ス入費ニ歸スルモ
トス例ヘハ下駄屋ハ新工夫ノ下駄ヲ造リ出

シテ買手俄ニ増シ價直一時ニ騰貴セハ其利益
ハ非常ニ多カルヘシ是ニ於テ更ニ多勢ノ職人
ヲ雇入レテ盛シニ之ヲ造リ出スノミナラス他
人モ其職業ニ利アルヲ見テ互ニ相競テ其製ニ
倣テ之ヲ造ルヘシ是ニ於テカ下駄ハ澤山市場
ニ充滿スルヲ以テ價格漸ク下落シテ終ニ通常
ノ相場ニ戻ルヘシ之ニ反シテ價格非常ニ下落
シテ製作ノ入費ヲ償フニ足ラサルカ如キ相場
ニ至レハ漸ク其造リ出シ高ヲ減少スルニ由リ
市場ノ供給モ隨テ減シ終ニ價格騰貴シテ復タ

第一類
ノ物價

相當ノ價直ニ歸スヘシ是レ凡ソ物價ノ需要ト供給トノ權衡ヲ得セシムルモノナリ

○然リト雖モ古今絶世ノ名畫古器物ノ價直ノ如キハ買客多ケレハ價格益騰貴シテ其止マル所ヲ知ルヘカラサルニ至ル何ントナレハ斯ル稀靚ノ物品ハ買客ノ多寡ニ隨テ新タニ之ヲ造リ出スヲ能ハサレハナリ

第二類
ノ物價

五穀金銀及ヒ銅鐵ノ如キ第二類ノ物品ハ買客多キヲ以テ需要ヲ増サントセハ造リ出ス費用益増加レテ其價格ヲ騰貴スルニ至ル喻ヘハ止

海道蝦夷地ノ渺漠タル沃野ノ中央ニ一村落アリ初メ其村落ニ人民ノ移住セシ時ハ人口纔ニ五十人ニシテ衣食其他ノ需用品ハ悉ク宅外ノ良田ヲ耕耘シテ之ヲ收穫シ生活ノ有様頗ル豊カナリキ然ルニ纔ニ四五年ヲ經シニ人口驟カニ増殖シテ一百五十人ニ至リ其初メテ移住セシ時ニ比スレハ凡ソ三倍ノ食料ヲ備ヘサルヲ得サルヲト為レリ是ニ於テカ唯村内ノ沃土ヨリ收穫スル所ノ者ノミヲ以テハ之レカ需メニ應スル能ハス止ムヲ得ス一二里ヲ隔テタル

野外ニ出テ、更ニ肥饒ノ土地ヲ索メテ之ヲ耕作セサルヘカラス然ル時ハ搬運其他ノ手數ノ為メニ多少耕作ノ費用ヲ増スヘシ是ニ由テ村内ニ於テ收穫シタル米ハ一俵三圓ニ販賣シ得ヘキモ一二里野外ニ於テ收穫セルモノハ一俵ニ付二十五錢ヲ加フヘシ故ニ之ヲ賣ルニハ三圓二十五錢ヲ以テセサルヘカラス此ニ至テ村内ニ於テ收穫セルモノモ等シク二十五錢ヲ騰貴スヘシ是レ國ニ人口増殖スレハ隨テ食料ノ價直騰貴スルノ緣由ナリ

凡ソ虚飾ニ屬スル物品ハ買客多クシテ價格騰貴スレハ隨テ買客ノ數ヲ減少スルニヨリ價ノ高低ヲ以テ需要ト供給トヲシテ權衡ノ宜シキヲ得セシムヘシト雖モ五穀等ノ如キ人民ノ日必用ナル物品ハ價格騰貴スルモ凡ソ人タル者ハ衣食セサレハ生活スル能ハサルニヨリ買客更ニ減スルヲ無カルヘシ然ルニ其需メニ應シテ穀物ヲ收穫スルニハ前ニ述タル村落ノ場合ノ如ク必ス其費用ヲ増スニ由リ隨テ價格ノ騰貴ヲ致スハ自然ノ勢ナリ此時ニ至テ穀物騰

貴ノ勢ヲ抑止スルモノハ唯左ノ二方法アルノ

三

第一 外國ヨリ穀物ヲ輸入スルヲ

第二 精巧ノ農具ヲ用キ化學力ノ作用ヲ以

テ好良ノ肥料ヲ施用スルヲ

第三類ノ物價

○第三類ニ屬スル製造品ハ大率造リ出ス費用ヲ増スヲナク幾何クモ製出シテ其需メニ供スルヲ得ルニヨリ買客増加スルモ其價格ヲ騰貴セサルノミナラス或ハ之ヲ下落スルヲアルヘシ例ヘハ從來手織機杼ヲ以テ造リ出シタル木

利潤ハ諸業共

棉ノ端物ヲ令ハ買客増加セシカ為メニ盛大ノ水車機械或ハ蒸氣機關ヲ裝置シテ之ヲ織出ス時ハ却テ之レカ費用ヲ減シテ前ヨリ安直ニ賣捌クヲ得ヘシ凡テ製造品ハ穀物魚肉類等ニハ異ナリテ其價值ト成ル者ハ重ニ財本ノ利潤ト職人ノ賃銀トニ在リテ其材料タル物品ノ代價ハ至テ寡シ即チ棉布一反ノ價直ヲ一圓トセハ其材料タル棉花ノ價ハ僅ニ二十五錢ニ談ルカ如キ是レナリ

○凡ノ財本ノ利潤ハ時世ト國トニ由テハ種々

ノ割合ヲ生スヘシト雖モ同時代同國ニ於テハ
諸産業共ニ同一ノ割合ニ歸スルモノトス喻ヘ
ハ船ノ製造ニ入レタル財本ト紡績機械ニ入レ
タル財本トノ利潤ヲ比較スレハ船ニ入レタル
者ノ利潤ハ年ニ四割ニシテ紡績機械ニ入レタ
ルモノハ二割五分ナレハ甲乙一割五分ノ差違
アリ然レ氏甲ハ風浪ノ為メニ沉没シテ一朝其
財本ヲ失フヘキ虞アルカ故ニ其餘分ノ利潤ハ
即チ夫等ノ損失ヲ償フモノナリ故ニ之ヲ除ク
時ハ同一ノ利潤ト為ルナリ

○凡ソ物價ハ之ヲ産出スル費用ヲ償フニ足ラ
サルヘカラス産出ノ費用トハ工職人ノ手間料
財本ノ利潤監督人ノ給料是レナリ其造リ出シ
タル物品ノ賣高ヲ以テ此三者ヲ償フニ足ラサ
レハ誰カ其業ヲ營マンヤ若シ又價格非常ニ騰
貴シテ利潤多キ時ハ諸人競テ其業ニ從フニヨ
リ久シカラスシテ通常ノ相場ニ復スヘシ畢竟
專賣ノ獨權ヲ有スルニアラサレハ何業ト雖モ
永ク壟斷ノ利ヲ私スル能ハサルナリ
今此章ヲ了フルニ臨ミ通章論スル所ノ三種類

ノ物品ノ價直上ニ需要即チト供給賣手ノ影響ス
ル方法ヲ略載スヘシ

第一類ニ属スル古人ノ名畫古器物等ノ如キ
需要ニ應シテ供給ヲ増ス能ハサル物品ヲレ
テ需要ト供給トヲ平均セシムルノ方法ハ買
客互ニ相競テ其價ヲ競騰キアケ終ニ其供給ヨリ
多キ買客ハ其競場ヲ退キ去レハ始メテ其供
給ヲレテ需要ニ合ハシムルモノトス
第二類ニ属スル米穀等ノ如キ日用ノ物品ハ
産出ノ費用ヲ増サレハ供給ヲ増ス能ハス

此等ノ物品ハ價格騰貴スルモ殊ニ其買客ヲ
減スル能ハサルヲ以テ需要ノ供給ニ超過ス
ル時ハ何レノ方便ヲカ是レ索メテ其供給ヲ
増サレハカラス而シテ之ヲ増スニハ必ス
其産出ノ費用ヲ増スニヨリ價格隨テ騰貴ス
ヘキナリ

第三類ニ属スル製造品ノ如キ産出ノ費用ヲ
増スヲナクシテ限リナク其供給ヲ増加シ得
ヘキ物品ハ需要ニ應スルニ足ラサル時ハ一
時ハ價格ヲ騰貴スト雖モ之カ為メ其工業ニ

ハ非常ノ利潤ヲ獨占スルヲ以テ人々相競テ
其業ヲ興スニヨリ忽チ市上ノ供給ヲ増加シ
テ終ニハ從前ノ相場ニ歸スヘシ

第四章

貨幣ノ價值ノ事

貨幣ハ
他ノ物
品ト等
レク其
價ニ昇
降アリ

○貨幣ノ價值ハ鑛山所出ノ饒耗ニ由テ年々多
少ノ昇降アリ即チ一圓ノ貨幣ヲ以テ前年ヨリ
多量ノ米ヲ購求シ得ルハ貨幣ノ價值騰貴シタ
ルカ故ナリ又前年ヨリ少量ノ米ヲ購ヒ得ルハ
貨幣ノ價值下落シタルカ故ナリ故ニ金銀貨幣

貨幣需
用ノ多
寡ハ人
口ノ多
寡ト貧
富トニ
由ル

ノ價值トハ之ヲ以テ物品ヲ購求シ得ルノ多寡
ヲ云フモノニシテ貨幣ニ鑄造セサル金銀塊ノ
價ハ即チ貨幣ト同一ニシテ唯之ニ造幣ノ費用
ヲ加フルノミナリト知ルヘシ

○貨幣ハ彼此ノ人ノ間ニ立テ交易ヲ為スノ媒
介物ナルニヨリ國ニ人口増殖シテ漸次富實ヲ
致シ隨テ百工製造ノ業盛大ニ為ルニ際シ從前
ト同額ノ貨幣ヲ以テ賣買交易ヲ行フ時ハ俄ニ
金銀ノ價ヲ騰貴シテ諸物價ハ其割合ニ下落ス
ヘシ是レ國ニ新開ノ鑛山モ無ク又他邦ヨリ金

鑛山發
見ノ成
果

銀ヲ輸入セサルノ場合ナリ之ニ及レテ近年人
口増殖セス又百工製造ノ業モ興ラスレテ偶鑛
山ノ發見アルカ又ハ他國ヨリ多量ノ金銀ヲ輸
入シテ俄ニ其流通貨幣ヲ増加セハ物價ハ其割
合ニ騰貴スヘシ

○近來墨西哥及ヒ澳大利亞ニ於テ宏大ノ鑛山
發見アリシ以來世界中ニ夥シク金銀ノ供給ヲ
増加セシカ其割合ニ價格ノ下落ヲ致サ、ル所
以ハ是レト同時ニ世界萬國共ニ人口大ニ増殖
シ百工製造ハ日ニ盛ントトリ外國交易ハ月ニ

開ケテ商賣ノ旺盛ヲ極メタルニ由リ技術及ヒ
貨幣ニ夥シク金銀ヲ使用セシカ故ナリ然レモ
金銀價ハ鑛山ノ新タニ開發セシ以後多少ノ下
落ヲ致セリ就中銀價ノ如キハ既ニ二割ヲ下落
セリ歐洲諸國ハ近年漸ク銀貨幣ヲ廢シテ之ニ
代フルニ金貨ヲ以テスルニ至レリ之ニ由テ金
貨ハ漸ク西國ニ流入シ銀貨ハ東方亞細亞ノ貿
易市場ニ流出スルニ至ルナリ

第五章

金銀ノ此國ヨリ彼國ニ轉輸スル事

金銀ノ
諸國ニ
配分ス
ルニ法
アリ

○金銀ヲ諸國ニ分配スルノ方法ニアリ第一礦山ヲ有スル國々ヨリ通常ノ商貨物トシテ外國ニ輸出スルヲ第二ニ貨幣ト為シテ此ノ國ヨリ彼ノ國ニ轉輸スルヲ是レナリ澳大利亞及ヒ加里福尼ノ人民ハ金銀ヲ掘取ルヲ以テ專業ト為スニヨリ該國ノ人民ニ取リテハ金銀ハ則チ宛モ我國民及ヒ支那人民ノ茶及ヒ生絲ニ於ケルト一般ニ至重ノ物産ナリ是故ニ金銀ノ價ヲ定ムルモノハ我外國通商上ニ於テ貿易スル所ノ生絲及ヒ茶ノ價格ヲ高低スルト一般ノ理ニシ

テ例ヘハ加里福ニニ於テ新タニ豐饒ノ金礦ヲ發見セハ其影響ハ我國ニ於テ養蠶ノ成熟豐饒ナルト一般ナルヘシ若シ我國ニ於テ養蠶所得ノ多キ近年ニ稀ナル所ニシテ市場ノ供給前年ニ倍スルモノトセハ隨テ大ニ價格ヲ減シテ本國內ノ需要ヲ増加スルハ勿論廉價ヲ以テ外國ニ賣捌クヲ得ルニヨリ隨テ亦外國ノ需用ヲ増スハ必然ノ理ナリ澳大利亞ノ金山及ヒ加里福ニノ銀山ノ出礦増加セルノ成績モ亦之ト異ナル無キナリ

金銀ノ
貨幣ト
為リテ
他邦ニ
輸出ス
ル理由

○金銀ノ貨幣ト為リテ外國ニ輸出スル所以ハ
即チ第一狀チ小ニシテ至重ノ價直ヲ有スルト
第二ニ其國ニ輸入スル各種物品ヲ金銀ヲ以テ
購求スルニ在リ我國開港以來年々内國ニ輸入
スル所ノ價額ハ外國輸出品ノ價額ニ超過シテ
其貿易ノ平均ヲ失フヲ歎ナカラス斯ク年々輸
出品價ノ不足スルモノヲ補フニハ凡テ金銀貨
幣ヲ以テセリ其他外債利子トシテ年々外國ニ
輸出スル所ノ金額モ亦鮮少ナラス是レ今日金
銀貨幣ノ拂底ニ至レル第一ノ原因ト云フヘキ

英國ハ
貴金屬
ノ市場
ナリ

ナリ

○英國ハ諸國ニ産スル黄金ノ市場ニシテ第一
澳大利亞及々加里福尼ニ生産スル金ハ槩子一
且英國ノ市場ニ輻湊シテ然ル後世界萬國ニ播
布スルモノトス英國ハ斯ク多額ノ金銀ヲ輸出
入スト雖モ英國內ノ金ノ價格ハ常ニ變換ヲ生
スルト無シ蓋シ斯ク永久ニ價格ヲ變易セサル
所以ノモノハ國內ニ多量ノ金銀ヲ得ル時ハ必
ス其價格ヲ下落セシムルカ故ナリ若シ英國ニ
於テ金銀ノ價格下落シテ隨テ内國ノ諸物價共

ニ其通商ヲ行フ國々ノ相場ヨリ騰貴セハ直ニ
貿易ノ平均ヲ錯亂シテ其輸出物ハ益減ミテ輸
入品ノミ獨リ増加スヘシ是ニ至テ之ヲ平均ヲ
得セシムルモノハ金銀貨幣ナルカ故ニ此場合
ニ至レハ金銀ハ益外國ニ流出スヘシ是レ一般
ノ通理ナリ

經濟說畧上卷了